「新版100億年を翔ける宇宙 バリアフリーパッケージ（さわるカラーグラビア）

加藤万里子 著

恒星社厚生閣，24ページ，4,000円

教科書

お薦め度
☆☆☆☆☆

タイトルにもあるとおり，本書は日本で初めて視覚障害者（点字使用者）を対象としたバリアフリーパッケージの天文書である．視覚障害者が本書を出版社に注文すると，24枚の触図が入った「さわるカラーグラビア」と，本文がテキストファイルとなったフロッピー・ディスクが送られてくる．現在のところ，読者はパソコンを使用できる者に限定されるが，テキストファイルを聞きながらこのグラビアを見，天文学を学ぶことができる．

本書は最初から視覚障害者用向けに出版が計画された天文書ではない．親本である「新版100億年を翔ける宇宙」をいわば，視覚障害者のために「翻訳」したものと見ることができる．パソコンを使用できない読者にもグラビアの他，点訳本の提供をおこなえれば，さらに多くの読者を獲得することができると考えられる．今回のように，著者の了解が得られれば，テキストファイルから点字に訳する労力はそう大きいものではないため，この面でもこの本のもつ役割が大きいものといえよう．

いうまでもないが，星占いのレベルから電波天文学まで，天文学は視覚障害者も健常者と同様に興味関心の高いものである．ケプラーが弱視であったことはよく知られているし，昨年公開された映画「コンタクト」には，ＳＥＴＩ計画に参画しているカラード博士をモデルとした科学者が出演していたように，視覚障害者の天文学者も皆無ではない．また，視覚障害者向けの天文書は皆無であっても，小中高の教科書では健常者と同じレベルで天文領域は扱われているし，視覚障害者向けの科学雑誌として月刊の「点字サイエンス（ヘレンケラー協会出版）」があり，天文関係の記事が掲載され，十分ではないにしろ天文に関心を持つ読者の要求に応えている．現在，視覚障害者で物理学と化学では大学進学の実績がある．本書がきっかけになってケプラーやカラード博士のように天文学を志す者が出てくれば，望外の喜びとなる．

この本の誕生は本書のあとがきにあるように「ある日教壇に立ったら，視覚障害者が座っていた」ことから始まった．座っていたら何かしなくては，と考えた著者の試行錯誤の先が形となったものが本書である．著者の気負わない姿勢が本書の完成に大きな力となった．さらにこのグラビアの作成には視覚障害者が関わっていることも意義深い．ともすると，こうした作業は，健常者の立場から企画制作され，ユーザーである視覚障害者が関われないことが多く，同じ労力をかけながら中途半端になることが多いのである．

本書の発行は，1997年9月より毎月第4土曜に上映されている大宮市宇宙劇場での視覚障害者聴覚障害者も楽しめるプラネタリウム番組と共に，天文に関心のある視覚障害者にとって近年にない朗報であることはいうまでもなし，多くの視覚障害者に天文学へ興味関心を持つ機会を与えたことはいうまでもない．

最後に，この本の親本『新版100億年を翔ける宇宙』には，バリアフリーパッケージに使用されているような触図（りょうけん座の親子銀河）が一枚挿入されていることを述べておきたい．これまでも視覚障害者関連の本には，点字や触図の説明としてこうした図版を挿入するケースもあったが，一般の読者を対象とした書籍で，実際に触って読みとれる触図が挿入されていたのは初めての事である．こうした試みは視覚障害者の世界を広げるとともに，健常者に障害者への理解をえるきっかけになると思われる．　間々田和彦（筑波大学附属盲学校）